

ベルマーク便りコンクール2025 入賞校を訪ねて①

ベルマーク活動を学校内外にアピールするベルマーク便り。財団は、参加団体が作ったお便りを募集する「ベルマーク便りコンクール」を毎年実施しています。40回目を迎えた今回は117の参加団体から作品が届きました。どの作品も個性あふれるものばかりで、大変読み応えがありました。

審査の結果、優秀賞10校、佳作6校、特別賞5校の計21校が入賞しました。今月号ではそのうちの3校の活動をご紹介します。来月号にも紹介は続きますので、ぜひご覧ください。入賞校のリストは、ベルマーク新聞11月号や財団のホームページに載せています。

合言葉は「ペアッと(P)楽しく(T)明るく(A)」

優秀賞・福山市立新涯小(広島)

広島県福山市にある市立新涯小学校(木元直樹校長、児童747人)のPTAボランティア「ベル隊」が発行するお便りが優秀賞に選ばれました。コンクールに応募してくれたのは、PTA筆頭副会長の橋野聡子さんです。

新涯小PTAではこれまで、年度初めに決まった人数の役員や部員を選出するのがルールになっていました。もっと進めやすいやり方に変えようと、それまであった各部の活動を2023年度で終わりにし、新たに立候補制として活動を始めました。本部役員に5人が立候補しましたが、『学校や児童のために、この人数で何が出来るか』を模索する日々が続いていました」と橋野さんは振り返ります。

そんなある日、学校の廊下を歩いていた橋野さんの目に入ったのが「回収箱」です。以前使っていた箱が手つかずのまま放置されていました。自分たちに出来ること

を探していた橋野さんは、新体制となったPTA活動の手始めに、ベルマーク集めに取り組むことにしました。

最初の課題はメンバーを募集することでした。そこで選んだ手段がお便りの配布です。初めて発行したのは「PTAだより増刊号」。ベル隊の合言葉は「ペアッと楽しく明るく」です。頭文字をつなげると「PTA」になります。「お便りは楽しく読んでもらいたい」と橋野さんが話すのとおり、たくさんの情報に加えて、季節感のあるイラストが多く散りばめられています。

その後も発行を続け、現在、ベル隊のメンバーは18人になりました。

「保護者の皆さんに感謝の気持ちしかありません」と話すのは片岡正行教頭です。新涯小の特色をうかがうと「保護者の方が自ら手をあげて、前向きにPTA活動に協力して下さることで」と話してくれました。



①テトラパックの回収箱は「アルミなし」と「アルミ付き」に分かれている ②手作りの箱を使って ③ベル隊のみなさんと教頭先生(右)

多くの方に部の存在を知ってもらいたい

佳作・福生市立福生第三小(東京)

東京都福生市立福生第三小学校(浅倉宏之校長、児童379人)は、休止していた活動を今年度から再び始めました。再開のきっかけは、保護者が新たな気づきを得たことでした。

発端は、過去にベルマーク活動をしていた記録を今年度のPTA副会長、加藤奈津香さんが見つけたことでした。

「ベルマークのような作業が好きなのはいるし、子どもが喜ぶものを購入できるなら、やらないと損なのでは」とそう気づいた加藤さんは、「ベルマーク部」の立ち上げを提案。PTAから派生した組織と位置付け、活動したい人に広く参加を呼びかけられる体制を整えました。

2025年4月に発行したのが「再開のお知らせとご協力をお願い」というお便りでした。運動の目的と回収方法を周知し、部員募集も呼びかけました。

回収のためにウォールポケットを用意しました。集め

たあとに効率よく集計することができます。昨年度にPTA副会長を務めた足立さやかさんと一緒に、より使い心地が良くなることを目指して作りました。

7月には「ベルマーク通信 vol.1」を発行し、集まった点数や、部員の活動内容、地域の回収箱の設置場所などを載せました。PTA広報誌でもベルマーク部のスペースを設けてもらい、お便りを通じた周知に力を入れました。

活動を始めてみて、足立さんが感じたことは「いろいろな企業が子どもたちのために協力してくれていることの素晴らしさ」。加藤さんは「活動を始めるまで、お買いものした額の10%が支援になるのは知らなかった。そこが募金との違いだと思う」と意義を語ってくれました。より多くの方にベルマーク部の存在を知ってもらい、部員を増やすことを目標に、これからも活動を楽しみたいとのことでした。



①PTA室前をベルマークコーナーに。ウォールポケットには協賛会社の商品写真がたくさん貼られている ②作成したお便りを手に

「何のために集めるか」を伝えていく

特別賞・小金井市立小金井第三小(東京)

東京都小金井市の市立小金井第三小学校(黒木智道校長、児童861人)は1961年から参加しています。1975年にいったん活動を休止しましたが、2009年に再開。現在はPTAボランティア「サンベル」を中心に活動しています。

サンベルの名前は「第三小学校のベルマークボランティア」だから。大切にしてきたのは「参加を強制しない」「楽しく続ける」という姿勢です。現在の代表を務める佐々木景子さんは「サンベルは参加を強制せず、集まれる人が集まれるときに来る。それでも自然と人が集まってくるのがこの活動の良さだと思っています」といいます。

サンベルのスローガンは「夢をかたちに」。キャラクターの妖精「ベルリンちゃん」はオリジナルで、イメージカラーは黄色です。

サンベル創設に関わった八田珠穂さんは、当時を振り

返ります。

「ベルマークを知ってもらおうことが、まず大事だと思いました。キャラクターをつくったのも、子どもたちに親んでもらうため」

活動の中で大切にしているのは、「何のために集めているのか」を子どもたちに伝えること。「集める」「集計する」「必要なものを買う」「次に何をかうかを考える」——この循環を意識的につくることで、活動が「自分事」として受け止められていきます。

地域柄、転勤族が多く、生活スタイルもさまざまですが、その時々で関わる人が関わり、バトンを渡してきました。危機を迎えた時期もありましたが、話し合いを重ね、乗り越えてきた経験が、今のサンベルにつながっています。



①作業に集まったサンベルのみなさん。和やかな雰囲気の中、お話が尽きることはなかった ②サンベルのオリジナルキャラクター「ベルリンちゃん」